

TAMC

会報

Bulletin of the Tokyo Amateur Magicians Club

Dec. 2022

令和4年12月号

主要内容(令和4年11月)

第1例会 11月3日(木) 休会

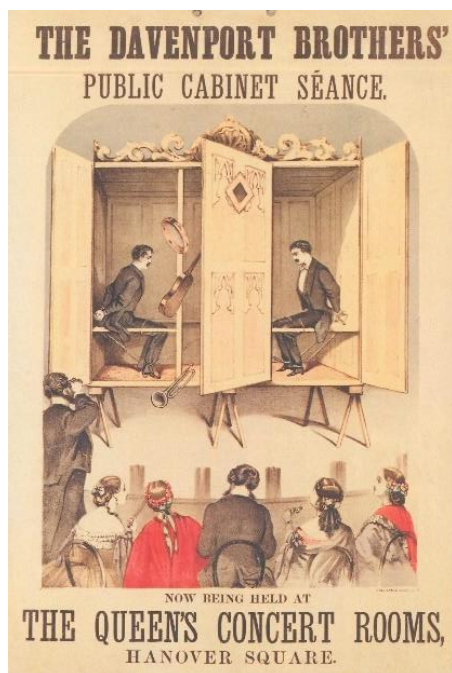
第2例会 11月17日(木) 18:00~20:00 田中田村町ビル5階 5C 会議室

会員発表 : 森田晃君 池内和彦君 田澤利明君

発表会の反省 : 村上大会委員長ほか

土曜研修 11月12日(土) 13:30~17:00 杉並区永福和泉地域区民センター

テーマ:「シルク・ロープの基本と応用」 講師:田澤利明君



(左) ダavenport兄弟ロンドン公演のポスター (1865年)



(右) 宙を舞う楽器をみて驚くドイツのマジシャン、ジャコビー・ハームズ (1866年)

2023年1月の活動予定

新年会 : 1月7日(土) 12:00~15:00アルカディア市ヶ谷

第1例会 : なし

第2例会 : 1月19日(木) 18:00~20:00 田中田村町ビル5階 5C 会議室

土曜研修 : なし

◆第1例会 11月3日(木) 祝日のため休会

◆第2例会 11月17日(木) 18:00~20:00 田中田村町ビル 5C会議室
司会:大澤 泉 記録:梶田明宏 出席 22名(+Zoom7名) 撮影
動画記録: <https://youtu.be/C00s-DQ0aqQ> 撮影:矢澤潤

1. 会員による発表

- 1) 森田 晃 君 MMTP 出品のマジック 3頁
<https://youtu.be/C00s-DQ0aqQ?t=53s>
- 2) 池内 和彦 君 マジック発表会「つれづれなるままに」について 5頁
<https://youtu.be/C00s-DQ0aqQ?t=27m36s>
- 3) 田澤利明 君 「ロープとハンカチ」を使った楽しいマジック 7頁
<https://youtu.be/C00s-DQ0aqQ?t=40m15s>

2. 連絡報告

第74回マジック発表会の結果について 村上大会委員長ほか 9頁

- 1) 全体報告 村上大会委員長 <https://youtu.be/C00s-DQ0aqQ?t=50m57s>
- 2) 各出演者による報告
近藤 誠君 (トリオ de マジック)
<https://youtu.be/C00s-DQ0aqQ?t=1h1m5s>
犬竹一浩君 (マジックをして友達を作ろう)
<https://youtu.be/C00s-DQ0aqQ?t=1h4m54s>
柏木直也君 (クローズアップ劇場)
<https://youtu.be/C00s-DQ0aqQ?t=1h11m>
濱谷堅蔵君 (夢へのいざない)
<https://youtu.be/C00s-DQ0aqQ?t=1h19m11s>
石崎健治君 (ゴールデンアワー)
<https://youtu.be/C00s-DQ0aqQ?t=1h28m17s>
高橋雅洋君 (夢見るシルク)
<https://youtu.be/C00s-DQ0aqQ?t=1h31m59s>
氣賀康夫君 (お椀と玉)
<https://youtu.be/C00s-DQ0aqQ?t=1h34m14s>
土屋理義君 (椅子とランプと3つの予言)
<https://youtu.be/C00s-DQ0aqQ?t=1h37m33s>
- 3) 全体の感想とご祝儀の紹介 蔵原会長
<https://youtu.be/C00s-DQ0aqQ?t=1h43m8s>

◆土曜研修 11月12日(土) 13:30~17:00 杉並区永福和泉地域区民センター
講師:田澤 利明 出席 13名
テーマ:「シルク・ロープの基本と応用」 17頁

会員による発表

◆MMTP 出品のマジック

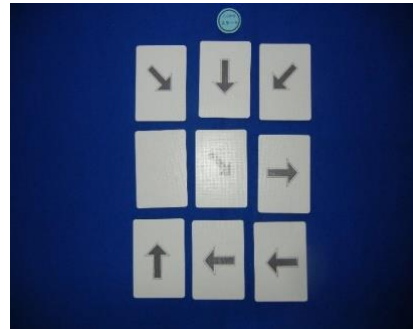
森田 晃 君

<https://youtu.be/C00s-DQ0aqQ?t=59>

今回も前回に引き続き、森田が工作し収集した絵カードマジックを紹介した。何れも11月18日開始の第14回MMTPに出品の予定である。

1. (A16-38)アロー宝さがし

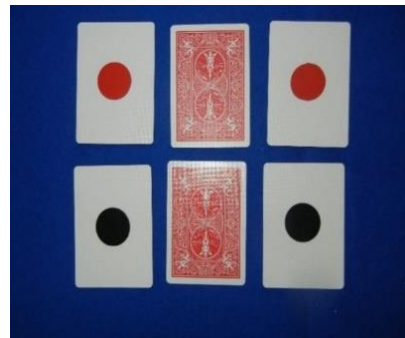
9枚のホワイトカードの1枚に客のサインのあるシールを貼って、十分にカットしてからシールを裏側にして縦横3×3枚に並べる。次に「スタート」の文字のチップを取り出して1枚のカードの前に置き、そのチップの前のカードの裏を見ると白紙だったのに矢印が現れる。そこで、その矢印が指す方向のカードの裏を見るとまた矢印が現れる。こうして次々に矢印を辿って行くと客の名前を書いたシールを貼ったカードに行き着く。



2. (K21-19)ドット・インポシブル

テーブルの上に6枚のカードを並べて客に好きな1枚を指定して貰う。

そして指定されなかった5枚を検めると5枚とも赤い丸のカードであるが、客が指定したカードを見ると、それだけが黒い丸のカードである。



3. (A16-14)選ばれる肖像画の予言

先ず予言の封筒を置く。次に客に7枚の肖像画を渡してアンダー・ダウンで1枚の肖像画を選ぶように云う。するとモナリザの肖像画が残るが、予言の封筒を開けると演者が描いた下手な漫画のモナリザが入っている。

絵が下手なので予言が外れたように思えるがカードの裏を見るときちんとしたモナリザの肖像画である。



4. (A15-41)超能力バトル

予言のカードを裏向きに脇に置く。そして超能力候補の5人が描かれた5枚のカードを、客と演者で1枚ずつ除くことを交互に行って最後に1枚にまでにする。

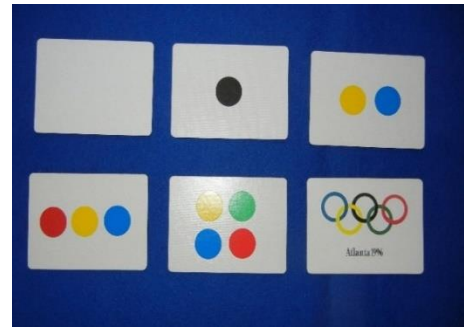
こうして残った超能力者の顔を演者が言い当てるが、実は最初に脇に置いた予言のカードにも最後まで残る超能力者が予言されている。



5. (A11-11) スポット・カード

5枚のカードの夫々に緑色、赤色、黄色、青色、黒色の小さなスポットが描かれている。このスポット同士を向かい合わせにして擦るとスポットが1方に移って残りは白いカードになる。

これを繰り返して最後に1枚にスポットを5つとも集めるが、その5つのスポットは五輪のマークになっている。



6. (A16-27) アナザー・インビジブルマーク

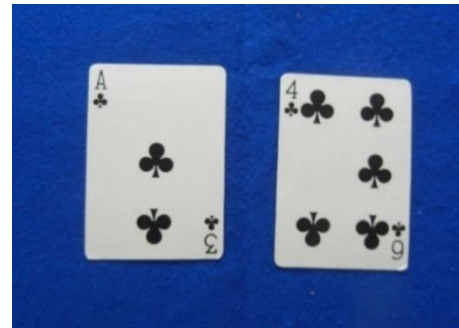
4枚のQueenは裏も表も普通のカードである。それを裏向きにして1枚ずつ見て行くと、先ずスペードのQueenの裏面にスペードのマークが4つ現れて、次にハートのQueenの裏面にハートのマークが3つ現れる。そしてクラブのQueenの裏面にはクラブのマークが2つ現れ、最後にダイヤのQueenの裏面にダイヤのマークが1つ現れるが、そのマークは絵でなくカードを切り抜いた穴である。



7. (A03-19) 1が3、4が6になるカード

2枚のカードを裏向きに持っている。1枚ずつ表を見ると1枚はAceで、もう1枚は4の数のカードである。

この2枚を裏にしてオマジナイをかけ、1枚ずつ表を見るとAceだったカードは3になっていて、4だったカードは6になっている。



◆マジック発表会「つれづれなるままに」について

池内 和彦 君

<https://www.youtube.com/watch?v=C00s-DQ0aqQ&t=27m36s>

10月23日に開催されたマジック発表会で「つれづれなるままに」のロープマジックを演じました。この作品の経緯と演技の解説をいたします。

この作品は8年前の第69回マジック発表会で、中村紀典さんと共演して演じました「ある夢の中の出来事」を再演したものです。ある時中村紀典さんがボランティア出演をした時に演じたもので面白い演目であると直感をして発表会で演じました。中村紀典さんによりますとTAMCでは山本玄一さんが30年ほど前に演じていたのを見て面白い作品であると思いましたとのことでした。

(隠し幕について)

前回は日暮里の繊維街にある有名な「トマト」で購入しましたが、今回は池袋のユザワヤで相応しい布地がありましたので購入しました。黒色なので明るさを出すために黄色の生地でTAMCの文字を作成して貼り付けました。

(支え棒について)

ホームセンターでのぼり旗用の棒を2本購入して、土台を支えるのをペットボトルより口の大きい焼酎のボトルを購入して、水か砂を入れて固定することを考えましたが、ステージで水は使えないので、ビー玉を入れて固定することを試みましたが安定感が出なくて、リハーサルの3日前にL字鋼をのぼり旗の棒の下に3カ所取り付けビニールテープを巻いて固定させることを考慮しました。

(投げ物について)

帽子、おもちゃのぬいぐるみ、ネクタイ、上着を出しました。最初はカスタネットやハーモニカも試みましたが、ステージを痛めてはいけないとのことで、孫の持っていたおもちゃのピカチュウとアンパンマンの人気のものの縫いぐるみに変えて演じたら子供たちには受けました。

(助演者について)

隠し幕をすると観客から見えなくなるので、出水博造さんに助演をお願いして隠し幕の上げ下ろしをしてもらいました。その間の現象を実況して説明をしていただきましたが、その間のトークが出水博造さんのキャラクターを存分に出していただきとても温かみのあるゆっくりとした内容が素晴らしく観客をステージに引き付けてくれました。最優秀助演男優賞をあげたいと思うくらい上手でした。助演者に出水博造さんを選んで大成功でした。

(観客について)

柏木直也さんのアドバイスでお手伝いを頂くお客様をステージに上げて名前を聞いた時に、会場にいる観客に拍手を要請することでステージと客席の一体感が表出されることを教えていただきました。お見送りする時も出場して頂いたお客様に感謝の気持ちを持って拍手をしました。

(トークについて)

7分間の時間の予定でしたが、リハーサルでは5分間で終了してしまいました。2分間伸ばすことをトークで試みました。牧原俊幸さんからトークの心構えとして、早口にならずゆっくりとはっきり話すことを教えていただきました。司会の山崎孝一さんがブログの「つれづれなるままに」について紹介してくれましたので、トークのストーリーもボランティア出演時の芸名や漫談などを組み入れて、演目の「つれづれなるままに」まで

つなげることが出来ました。

(演技についての解説)

椅子に座り、ロープで両足を自分で結びます。両手はお客様にきつく縛ってもらいます。その後、助演者に隠し幕をあげてもらいます。観客から見えなくなったところで、両手を斜めにずらすとロープから外れますので、あとは自由に操作ができます。予定の品物をすべて隠し幕の後からステージに投げ出したところで再びロープの中に手を入れます。その後、助演者に隠し幕を下ろしてもらいます。観客には、手と足が最初の状態に縛られているのに上着やネクタイなどが脱げている不思議さを感じてもらいました。

写真は、11月17日(木)に例会時で解説披露した時のものです。



自分で両足にロープをかける



お客様に両手を固く縛ってもらう



この状態で幕をしたら、両手をロープから外す。帽子、おもちゃ、ネクタイ、上着などを幕の後から前に放り出す。その後、ロープの中に両手を突っ込み前の状態に戻す。幕を下ろして、お客様にロープを解いてもらい演技を終了する

◆リールを使ったシルクの結び解け、リングの貫通

田澤 利明 君

<https://www.youtube.com/watch?v=C00s-DQ0aqQ&t=40m15s>

1)背景

このマジックは、今年 10/23 開催の大会で私が演じたものです。大会会場の有楽町朝日ホールでは日経ホール同様、動物・火・水が禁止されており、得意な鳩出しマジックができないので、1 年半前から取り組んでいました。きっかけは、会員の児玉武雄君からテンヨーのリール（ドイツ製、1970 年ころ発売、当時の価格 5000 円）をコロナ禍前の 2019 年に頂戴したことです。



一方、Tina Lenert の非常に美しく不思議な演技 <https://youtu.be/SKBwsWXBj5E> 「リングとシルク」を 10 年前に見て、いつか演じてみたいと思っていた事、たまたまジョニー広瀬の「リングとシルク」解説 DVD を入手できた事で、技法を学び、演技スタイルと手順の研究を Rice's Encyclopedia of Silk も参考に 1 年以上掛けて完成させました。



2)リールについて

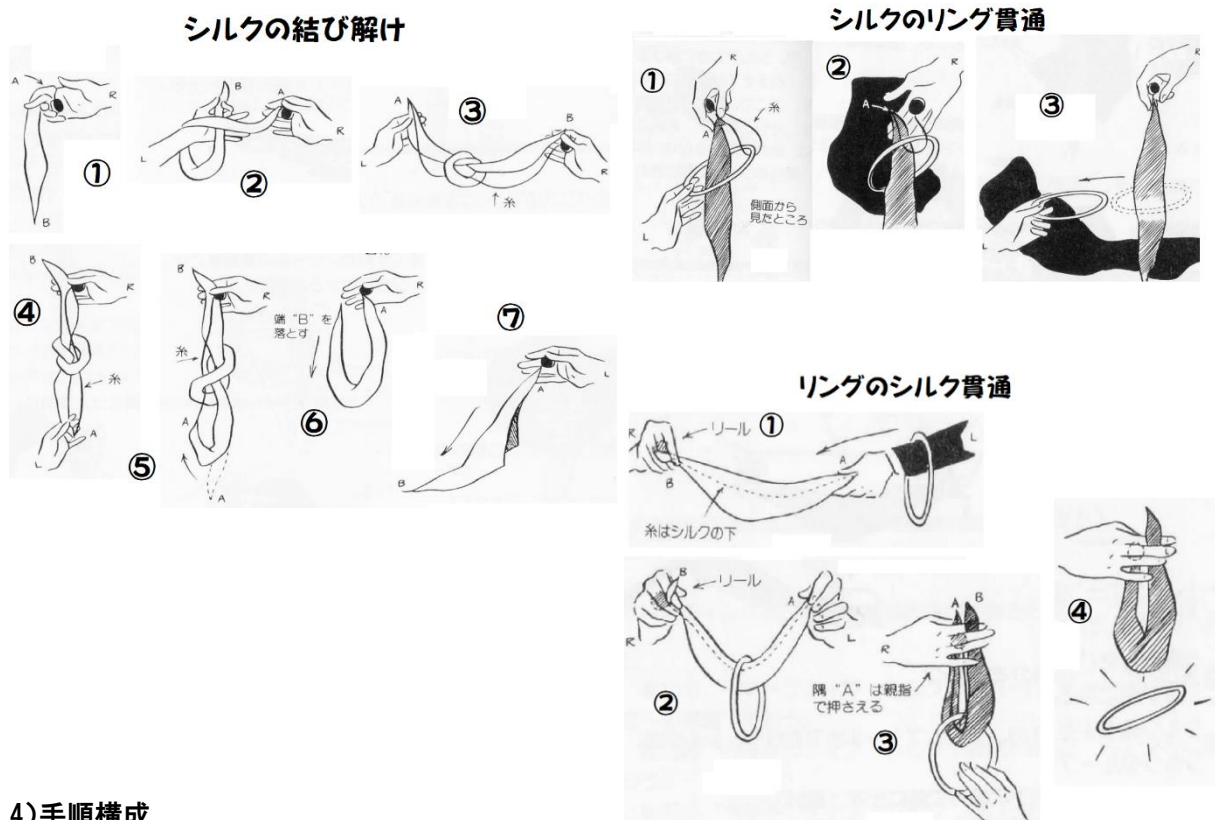
児玉さんから頂戴したテンヨー製のリールは、このマジックに最適です。音も静かで糸の張力も適切で巻きもスムーズ。一般的にリールには、ストッパー付きとストッパー無しのタイプがあり、更にストッパー付きには、ロック式（一度押すとロックされ、もう一度押すと巻きが解放される）とプッシュ式（押している時だけ巻きがストップされる）があり、このマジックではプッシュ式が良く、更に、リールを保持する指掛けがついているのが良い。ついていないとフィンガーパームの形でリールを保持することになるので初心者には難しい。ジョニー広瀬はストッパー無し、指掛け無しリールを使用しているが、リールの糸のコントロールがやりにくく、リールを持つ手にどうしても力が入りスムーズな動かし方が難しいと推察しています。

テンヨー製



写真の A:中国製の真鍮削り出しの高価な優れもの B:中国製の樹脂製で壊れやすい。 C:中国製の金属製、安価で優れているがリールの巻き音が大きく舞台では BGM でその音を消すなどして使用するのが望ましい。練習にはとても良い。いずれもリールに使用する糸は伸びない黒のテグス約 1m を巻き上げる性能を持っている。200~300 回以上の練習でテグスが切れてしまうので、糸の交換を行う為、リールの分解が容易なタイプが良い。B 以外はいずれも良い。

3) ライスのシルク百科事典(Rice's Encyclopedia of Silk)から技法の紹介



4) 手順構成

手順を考える上で、最も注意したことは、リールを使っているという印象がお客に感じさせないようにしたこと。例えば、シルクにリールをぶら下げて、自動で上昇する現象を Tina Lenert も演じているが、誰が考えても糸で操っているとしか思われぬ。私はこの現象を手順から排除しました。また、シルクがリールを通過するとき 90 度で曲がると抵抗が増えて、どうしてもシルクの移動が遅くなり、糸を使っていることが感じられてしまうので、シルクがまっすぐな状態でリールの巻きを行うように工夫しました。

以下、私の演技手順①～⑤です。

- ①両手に持ったシルクが瞬時に結ばれる。その後、結ばれたシルクを手でほどく。
- ②もう一度、シルクを結ぶとシルクが瞬時に自動でほどける。
- ③左手にシルク、右手にリングを持つと瞬時にシルクがリングの中に入る。シルクをリングから外す。
- ④今度は、リングに通したシルクが、一瞬にして、シルクがリングから外れる貫通現象。
- ⑤シルクにリングを通して、リングをぶら下げる。瞬時に、リングがシルクを貫通して外れる。

本番の舞台では上記で演じましたが、

①で「手でほどく動作」が演技として②の「自動でほどける」とダブっており、客から見れば、手でほどくのではなく、自動でほどけばよいのでは？と考えさせてしまう。

故に、後日、①→③→④→⑤→② に変更し、違和感のないスムーズな流れの手順に変更しました。



連絡報告

◆第 74 回マジック発表会の報告

村上大会委員長ほか

<https://www.youtube.com/watch?v=C00s-DQ0aqQ&t=50m57s>

第 74 回発表会を振り返って

大会委員長 村上日出夫

今年一年を振り返ると、コロナ禍の中で、家族会、発表会が開催出来るのかどうかが見えない中で、どの様にもっていくかを悩み、皆さんの意見を聞きながら進めて来ました。

スケジュール表に示す様に、例年のスケジュールと違った動きになっており、家族会開催準備スタートは、2ヶ月遅れになってしまい、それが発表会準備の遅れにも影響してきました。

しかしながら、皆さんのお力添えで、家族会も発表会とも開催に間に合わせる事が出来、どちらも成功裏に終わる事ができました。よく短い時間の中でまとめ上げる事に出来たことに、流石の TAMC メンバーと感謝している次第です。

(図1) コロナ禍での実施スケジュール

												○	大会委員会開催
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
2022		家族会可否のアンケート	家族会開催決定 出演者募集3/29-4/22 プログラム決定		家族会リハ 5/14 本番5/29	秋の大会 出演者募集 6/19-7/7		演目の調整と決定	リハ9/25 演目・プログラム最終決定	机上リハ 10/10 本番10/23			○
													反省会
2018	家族会 出演者募集 1/18-2/1	演目調整・プログラム決定	秋の大会 出演者の募集 3/15~4/19		家族会リハ 5/12 5/13 本番5/27	演技内容連絡~6/21 演目の調整	演目の決定 プレリハ	リハ9/9 演目・プログラム最終決定	机上リハ 9/29 本番10/7				

それでは、10月23日に朝日ホールで行われた発表会についての内容を説明します。

このコロナ禍においての出演者23名、協力者13名、計36名の方により、行うことが出来ました。

観客入場者366名、入場券配布枚数620枚で、59%の方が、いらっしゃいました。観客人数が、例年より少ないのは、従来ですと、入場券は800枚くらい配布しますが、今回コロナ禍ですので、枚数を絞ったことに影響していると思われます。

お客様からのご意見を一部紹介します。

○TAMC しか見られないバラエティとオリジナルティがあって楽しめた。



- クローズアップマジック 映像はとても良く、見えにくいこともなく、不思議さも観客に伝わってきた。
- 会場の雰囲気も和やかで、素敵な構成演出で、とってもあたたかいムードの演技で楽しませて頂いた。
- 音楽は、演技にマッチして音量も丁度よかった。個人的に懐かしい曲もあった。
- ファンカードなど演技のかぶりがあったが、逆に TAMC のスライハンドのこだわり志向や演出の違いを感じて良かった。
- 出来るだけ多くの会員に出演機会を作っている印象を感じた。

その他、辛口コメントもありましたが、それは、大会委員にアナウンスをして 反省をお願いしています。その中で、会員の皆さんにご協力をお願いする項目として、次の点があります。

- 入場券の半券部分に来場者のサインをしていない方がかなりいて、会場に来てから記入しているので、受付が渋滞することが起きていました。そこで、各自、入場券を配布する時に来場者にサインをして頂くことをお願いして欲しい。
- 来年は、重複演技を防ぐことから、出演者募集時期を早め、各自の演技内容を早い時点で決めて報告して頂きたい。

結論として、大会の総括と次年度への課題を図2に示します。

(図2) 大会の総括と次年度（90周年）への課題

総括

- コロナ禍、短期間で開催できたこと、大きなトラブルもなく、会場の盛り上がりや来場者の意見を集約すると大成功であったと思う。
- 多くの個別指摘事項は原因も明確なので、改善と再発防止は可能と思う。
- 個々人の演技内容についてのコメントもたくさん頂戴しているが、DVDが月末に入手できるので、各自にフィードバックします。

課題

- 出演者調整や演目調整の為、各自の演目内容を早い時点での把握が必要。
⇒ 出演者募集時期を早める。
- 多くの出演希望者に出演機会を作る工夫。
- 90周年記念大会としてのコンセプトとシナリオ策定の為に、年初から行動する必要がある。
⇒ 家族会と同時並行で進める。

続きまして、出演者の皆様から、お話を聞いて貰います。

各出演者報告

近藤 誠 君（トリオ de マジック）

トリオは毎回冒頭で大会を牽引する役割なので、いつもたいへん緊張しています。今回は、シルクとサムチップなど共通の道具を使いながらも、3人3様で別々の演技をしながら、ストーリーとして一つのまとまった演技になるよう工夫したことと、コミカルに演ずることをコンセプトとしました。

最初は、テンヨーのシルクセレナーデと同じもので、大きなものを作ってやろうと計画しましたが、製作段階で挫折しました。いろいろ探したところ、「マジックレコード」という、シルクセレナーデの製品よりも少し大きなものがあることがわかり、これも3色なので、それを採用して演技方も研究して

やりました。

反省としては、他のプログラムの演技と重複している部分があったということがあります。

トリオの最初のメンバーは、最初の上村さん、岩野さん、三好勉さんから、いろいろな変遷を経て今に到っていますが、そろそろ自分たちも高齢となったので、そろそろ若返りも必要かと考えています。踊りができなくても大丈夫です。マジックもできなくとも大丈夫です。大会のオープニングもり立てよう、という意欲がある方なら、誰でも大歓迎です。

犬竹 一浩 君(マジックをして友達を作ろう)

最初は一人で演技するつもりでしたが、山崎邦宣さんから、もし団体で何かされるなら参加させて欲しいという打診がありました。自分は、一人でなくとも3人くらい一緒に大丈夫だろうと思っていたところ、幕間マジックの出演を希望したが時間の関係で断られた人が何人かいるという話を聞き、その方達に声をかけて4人で一緒にやることにしました。

実際に4人でやってみて、一人でやるよりもいいことがいろいろありました。例えば新聞紙を切った女の子の姿が何人もつながる演技は、一人では6人または12人を出すことができますのですが、6人だと数が物足りないし、12人だと女の子ひとりひとりが小さく、しかも中央がだらりと垂れ下がってしまいます。それが4人でやると、一人6人の女の子を出して、24人分がずらっと並んで迫力がありました。

「夕焼け小焼け」の歌も、最初は自分が歌う予定でしたが、幼稚園を経営する山崎さんから、この歌はやっぱり可愛い女の子の声で歌ってこそ情緒があるからということで、山崎さんが調べて音楽を探し、CDを用意してくれました。

「友」の字が揃う演技も、自分は今まで観客に背中を向けてやっていたのですが、リハーサルで、前を向いて胸のところで見せた方がいいというアイデアが出て、そのようにしました。

演技ではなく、配役の会場整理についてですが、エレベータの上と下で連携して、観客の流れを上手く調整できました。検温と消毒もスムーズにできました。

チケットを忘れた人がいましたが、紹介会員を確認して、入場できるよう対応しました。たまたま通りかかって、自分はマジックが好きなので観覧できないか、と申し出た人がいましたが、その方は丁重に断りました。



柏木 直也 君(クローズアップ劇場)

今回は、クローズアップマジックを大型スクリーンで見せるという、初めての企画で、何が起こるか判らず、しかも私だけではなく、氣賀さん、佐々木さんというTAMCの大ベテランの方々をまとめるという大役を担うこととなり、会員歴の短い私にはたいへんな重荷で緊張しました。

私のセッションについては、あまり反応がなかったように感じました。中には、「初めての企画としてはまた及第点でしょう」というような意見はありましたが、このコメントに代表されるように、大きな批判もなければ、大きな褒めの言葉もなかったようです。



氣賀さん、佐々木さんの演技は、至近距離から見てとても素晴らしかったのですが、それが実際どこまで観客に伝わったのか、まだ映像を見ていないのでよくわかりませんが、会場からの反応が思ったより薄かった感じで、来年への課題が残りました。自分の演技も、地味だったようであまり伝わらなかったかもしれませんが、会員では氣賀さん、蔵原さん、高橋忠利さんから

お褒めのお言葉をいただきました。外部の方では、古川令さんからもお褒めの言葉をいただきました。こういうマジックに造詣の深い方々にお褒めのお言葉をいただいたのが、自分としての成果として誇ってもいいかと思いました。

八田 進二 君(ハンガー)

昔の大会では、高木先生のロープマジックなどを演じてきましたが、この年でスライハンドは無理なので、若いときに見て感動した、いわゆる古典的なマジックで、しゃべりながら上手くごまかせる演技はないかと探して、今年は「ハンガー」を演じることとしました。

これはたまたま、TAMCの何かのイベントで入手していて、どうやって演ずるのか考えていたところ、これもたまたまですが、ダーク大和が演じた古いDVDを入手し、それを見て、そのまま再現しようと思いつきました。それには助手が必要で、福岡さんをお願いしました。



私は助手を使ったその演技はまったくダーク大和のオリジナルかと思っていました。

ところが、大会の後、何人の方からご指摘をいただき、それはマイク・キャヴェレイという人の作品ということで、いろいろな方から資料をいただきました。実は、大会委員会に演目を報告したとき、牧原さんから、以前めざましテレビで演じましたとご

指摘いただき、それは一人で演ずるもので、マイク・キャヴェレイのオリジナルも一人で演ずるものだったようです。

濱谷 堅蔵 君(夢への誘い)

「夢への誘い」と題した演技の3回目となりますが、今回はいつもと趣向を変えてトークから入りました。特に私がこだわったのは、学生時代に見た映画「メリー・ポピンズ」が特に印象的で、魔法使いの家政婦がいろいろな不思議なことをして楽しませてくれたので、それにあやかしたマジックができないかなあと思ってコンセプトを考え始めました。それから、緒川集人さんのFISMのアクトを見ていたら、最初はマジックをしなくて、コロナのパンデミックで自分はいましばらくマジックが出来なかった、皆もそうだった、という話から始まり、その語りで会場が一つになったことに感動しました。それで、マジックは最初から不思議なことをしなくとも、こういう入り方もあるのかなと思って、やってみたくまりました。それで、導入部分はメリー・ポピンズの音楽が流れる中登場して、最初はトークから始ことにしました。

演技自体は「起承転結」で構成しました。メリー・ポピンズは物を動かしたり、浮かせたり、色を変えることが多いので、これをコンセプトに、先ず「起」として最初にカラーチェンジの花、「承」としてフローティング・チェア、「転」にはバルーンを入れました。これは売りネタではありますが、ヘリウムガスの風船の糸をどんどん切っていくと、糸が繋がって上に揚がっていくものです。最後の「結」がレヴィテーション(人体浮揚)です。



頭の中ではそのようにストーリーを組み立てましたが、実際は難題続きで苦勞し、思っていたことの50%くらいしかできませんでした。特にレヴィテーションは、上がったことが判る人が半分くらいで、上がったのか上がらなかったのかよくわからなかったという意見が多くありました。それから風船についても、糸がつながる時に上に揚がりますが、それと同時に色を変えたので、現象が同時でごちゃごちゃになってしまいました。

こうした失敗は、リハーサルが十分出来なかったことが最大原因です。というのも人体浮揚の器械は音が大きいので最初は止めようと思っていたのですが、リハーサル会場に持ち込んで、みんなに意見を聞いてもらったら、それ程でもないという意見が多数でした。それで急遽やることにしましたが、問題は乗る人の体重は55kg以下、出来れば50kg以下が望ましいということで、リハーサルでは会場にいた女性に急遽お願いしました。けれども、本番でお願い出来る適当な体重の女性は、いろいろ探しましたが、最初は自分の周囲では見つかりませんでした。それで、能勢ゆりえさんと連絡をとって話をしたところ、能勢さんは快諾してくれました。しかし、それでも当日までは器械の実物を使った練習が出来ず、能勢さんとはメールで打ち合わせをしたのみで、当日の午前に初めて能勢さんに乗ってもらって器械を動かし、確認が出来た次第です。今後は、今回を反省に、事前の準備やリハーサルをきちんと行いたいと思います。

そのほか、風船のヘリウムガスについて、トラブルが続きました。リハーサルでは、大きなタンクを持ち込みましたが、前日、自宅での練習を終えた後、コックの閉め方が緩かったため、いざ使おうと思ったらガスが空になっていました。それで仕方がないので、リハでは口頭で説明をしながら進めましたが、見ていた人は何のことかよくわからなかったと思います。本番では、その反省もあり、小さなボンベを3本用意しました。それで当日午前のリハでは1本使い切りました。2本残り、そのうちの1本で昼休みに風船を膨らませたところ、上に揚がったら何かに触れて破裂してしまいました。それで、もう最後の1本しかなく、これでトラブルがあったらもう本場はないと思い、緊張しながら準備しましたが、なんとか無事でした。

演技の方は、能勢さんのカバーもあり、形だけは無事終わりましたが、このように反省点は多く、来年の演技はこれを踏まえて改良していきたいと思います。

石崎 健治 君(ゴールデンアワー)

今回は、スライハンドをやりたいと思いましたが、過去にボールの方は8年前、ファン・カードの方は7年前にやっています。実はどこかで聞いたのか何かで読んだのか、石田天海師だったかと思うのですが、スライハンドの演技は3分以上は長すぎるとおっしゃったとか。実は、自分のこれまでの演技は、どうしてもいろいろ盛り込みたくなるので、どちらも4、5分だったのですが、今回はボ

ールの方は2分半、ファンカードの方は3分で組み立て、合計5分半でやらせていただきました。

使ったボールは、ダイソーで8、9年前に買った針山ボールで、マジック道具ではありません。ふだんは私は45mmを使いますが、これは50mmあります。これを4つ使ったわけですが、自分はシェルを使わないので、これまではカラーチェンジを入れていましたが、これはカラーチェンジも出来ないで、出現・消失だけで演技をまとめました。

衣装については、リハーサルでは黒がいいといわれました。本来はタキシードなどがいいのかもしれませんが、自分には似合わないで、黒いベストにすることとしました。最初に行った池袋のデパートでは5万円もしたので、地元の洋服の青山で1万5千、これもちょっと高いと思いましたが購入して、本番の演技に臨みました。



高橋 雅洋 君(夢見るシルク)

私は入会から15、6年立ちますが、最初はずっと団体で大会に出演していて、単独では3年前に続き2回目です。

今回、元日劇があった場所に出来た朝日ホールという由緒ある場所で、伝統あるTAMCの大会の大トリという、荣誉ある大役を務める機会をいただき、ありがとうございました。

ドローンをつかみに使ったのは、5、6年前にドローンを買っていろいろ遊ぶ中で、これを何とかマジックに使えないかと考え、007の曲に合わせてドローンが登場し、そこからシルクを取り出して演技を始める、ということをついついたからです。聞いた方々からの反応もよく、結構インパクトがあったと思います。

小さなミスはありましたが、演技全体では大きなミスはなくよかったと思います。

来年の大会も朝日ホールとのことですが、私よりも若い人が出て活躍することを期待しています。



氣賀 康夫 君(お椀と玉)

私が出演したクローズアップ・セッションでは、柏木さん、佐々木さんのカードマジックに続いて、私が3番目にお椀と玉を演じるという構成でした。

柏木さんの演技は、近くで見ても種がわからない不思議なもので、柏木さんに種を教えてくださいとお願いしていますが、未だに教えていただけません。佐々木さんみたいへんユニークな演技をされ、素晴らしいお二人の演技を横から拝見していました。



Zoom から報告

最後の私の演技は、何かカード以外をということで、お椀と玉を演じましたが、これは高木重朗さんから伝承しているものをそのまま演じたもので、基本的には、私自身が新しく工夫した手順と

かいったものはありません。古典的な手順を忠実に演じました。ただ、もともとの原案で不自然なところだけを少し修正しました。

それは、古典の演技では、左右にそれぞれ種を隠す箱がありますが、左右に箱があるのは不自然なので、左側に箱、右側に巾着を置くこととし、左の箱からは大きな玉を取り出し、右の巾着は小さな玉を落とす場として使うこととしました(古典の演技では、玉は膝に落としますが、そうすると、それを取りに行かなければならないので)。そのような工夫はしましたが、あとは全く古典の演技の通りです。

それから、大きな玉に鈴を付けておいて、最後に出したときに鈴を鳴らそうというのは私のオリジナルです。ただ、大玉に付けた鈴は中の種がぬいてあり、実際には鳴らないので、別の鈴を振って音を出さなければいけない。それをクローズアップではない場面で観客に聞こえるようにするためには、どうやったらいいんだろうと悩みました。それについては、田澤さんが心配してくださり、とてもいいアイデアを出してくださいました。それは、前二つのカード奇術の演技のために、テーブルに集音マイクが置いてあり、私自身の演技の時はそれは使わないのですが、演技が終わった瞬間に音楽を止めて、集音マイクをオンにして鈴の音を拾ってもらうというものでした。曲芸的な進行でしたが、上手く成功していただき、鈴が効果的だったという話も後から聞きました。

ただ、私自身は、実際の演技を自分で見ていないので、DVDが出来たら、見て確認したいと思っています。

土屋 理義 君(椅子とトランプの3つの予言)

今回の演目の中で、唯一のメンタルマジックでしたが、楽しく演技させてもらいました。このマジックは「せりふ」が大事なので、2週間にわたり毎日1回練習し、そのたびにせりふを改良しました。お客の対応によって、次に演者が言うせりふが変わってくるためです。

さらに、ユーモアを随所に入れることも心掛けました(例えば「前のアメリカ大統領のトランプには、ハートが無いと言われています。しかし、このトランプは大丈夫、ハートもダイヤもクラブもスペードもあります」。お客が「ハート」と言えば、「やはり女性にとって「ハート」は大切ですよねえ」、もしお客が「ダイヤ」と言えば、「女性はやはりダイヤ(ダイヤモンド)が大好きですものねえ」というぐあい)。



演技時間短縮のため、近藤さんに頼んで事前に舞台上がる3人の女性客を選んでおいていただきました(勿論サクラではありません)。3人とも、マジックに対する反応がよく、スムーズな演技と、観客受けに大いに役立ちました。椅子の色当ては細工した封筒。トランプマジックは裏に1から52の数字がバラバラに書かれた52枚のカードを使う予言マジック。ネタは「Trilogy」と同じ、1ケースの中に、実際にはPHOENIX製の極薄カードが2組(104枚)入っ

ており、26枚の奇数数字が全てスペードの A、26枚の偶数数字がダイヤの J、そして普通の 1 組52枚の全ての裏に、「37」の数字を書き添えておくのです(内緒!)

蔵原会長の総括

今回の大会については、大会委員の皆さんはじめ各担当の皆さん、出演者の皆さん、たいへんご苦労さまでした。特に村上大会委員長以下大会委員の皆さんは毎月集まって、大会の準備を綿密に行われ、本番の成功となりました。私も時々参加しましたが、皆さんたいへん熱心に、活発な議論をされていました。大会の本番では、裏方のご苦労に支えられていることはいまでもありませんが、出演された方々の熱意も素晴らしかったです。TAMCは本番に強いといわれますが、本当にそう思いました。皆さまのご努力に感謝します。



マジック発表会を振り返って

90周年記念事業実行委員長 土屋理義

来年の90周年記念事業実行委員長として、今回の大会に関し、一言コメントさせていただきたいと思います。

コロナ禍という極めて厳しい環境下のもと、3年振りに秋のマジック発表会が開催できたことを嬉しく思います。そのために、ゴーサインが出てから、短い時間の中を、演目の編成、リハーサルの準備、コロナ対策の体制作り、入場券、プログラムやおみやげ手品の制作など、大変な努力が必要でした。

出演者、そして何よりも村上大会委員長、田澤副委員長をはじめとした大会委員や、裏方として協力いただいた会員の皆様、本当にご苦労様でした。

今回の演目を見ると、コメディ、メンタル、団体演技、マニピュレーション、本格マジック、イリュージョン、そして新たな試みとしてのクローズアップマジックの大型スクリーンを使っただけの演技など、どの演目も、他のマジッククラブの発表会では見ることが出来ないオリジナルな、バラエティに富んだマジックだったと思います。

新しい乗り物のセグウェイ、ドローンをマジック大会で使用したのも、日本のマジッククラブの発表会では、初めての試みです。既存のマジックの演技でも、演者の一工夫、改良が随所に見られました。

さすが日本で最も伝統のある最大の TAMC ならではの、演目内容であったと、胸を張ってよろしいと思います。

来年はいよいよ TAMC 創立 90 周年を迎えます。90 周年のマジック発表会の基本方針については、11 月 24 日の幹事会で、90 周年記念事業実行委員長として、お知らせしたいと思います。会員皆様のご協力をよろしくお願い致します。

会場 永福和泉地域区民センター 第4集会室

出席者 13名

講師：田澤 利明 君

テーマ シルクとロープの基本と応用

シルクの基本と応用

1. シルクの管理 (10~15分)

- ① シルクの折りシワが出ない保管方法？
- ② シルクの特性：柔らかい状態を見せること。→ぎゅっと握らずに親指と人差し指、または人差し指と中指で持つ。棒状に引っ張らない。
- ③ ハンドリング：きれいに見せる。振り方。

2. 2枚のシルクの偽結び (30~45分)

- ① Slip Knot
- ② 天海ノット：オリジナルの方法とスピリット百瀬式

3. 2枚のシルク偽結びの自然なほどき方の技法解説 (30~45分)

- ① 高木重朗式（裕里江さんらの一般的な方法）
- ② 石田天海式（あまり知られていない自然な方法）
- ③ 何度、結んでも解ける Slydini の方法（スライディーニの「2枚のハンカチほどき」）
・・・ジャグリングスカーフ2枚@100円/枚の活用（田澤用意）

ロープの基本と応用

1. ロープの基本 (30~45分)

- ① ロープの種類：綿ロープとアクリルロープの特徴と使い分け、ロープの末端処理
- ② ロープマジック時の注意：振り回さない。ねじれ防止
- ③ 基本練習：本結び、各種偽結び（蝶々結びなど）、ロープの2段輪

2. ロープの手順 (60分)

- ① 1本のロープの Cut & Restore の古典的方法2種
- ② ループ使用の Cut & Restore（スピリット百瀬式）

ロープとシルクを使った手順 (30分)

1. ロープに結ばれたシルク飛ばし（平岩白鳳の方法）
2. 2本のロープに結ばれたシルク外し（神田祭ですが、Riceさんのハンドリングです。）





出席者

八田、田中、村上、高橋（哲）、高橋（忠）、池内、守岡、出水、蔵原、濱谷、山崎（邦）柏木
及び講師田澤。

TAMC会報 令和4年(2022)12月号

担当: 梶田明宏